



## ごあいさつ

縄田浩志（代表理事）

私は、片倉もとこがワーディ・ファーマで現地調査を始めたちょうどその頃に、この世に生を受けた世代です。長じて私自身も研究者として20年以上、沙漠に通い続けるようになりました。はじめて沙漠で砂嵐に出会った時、「沙漠への畏敬の念」と「沙漠に暮らす人々への愛」を強く感じたことが、沙漠に通い続ける理由です。

沙漠の美しさ、厳しい環境のもとでたくましく暮らす人々の素顔は、われわれを惹きつけてやみません。しかしながら、沙漠のない日本に暮らす多くの人々にとっては、まだまだ「沙漠は異文化」です。“沙漠そのもののうつくしさをひきだす”講演会や展示会や出前授業、沙漠文化に関する学際的研究また芸術活動の支援を行っていく体制をより強固にしていくと共に、片倉もとこ研究資料の整理とその再活用を積極的に推進していく所存です。当財団の活動を、応援くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

片倉邦雄（評議員会議長）

約半世紀にわたって、私の伴侶、相棒として、主として中東イスラーム地域を跋涉してきた片倉もとこは、永遠の「フィールドワークに旅だつ」といって昨年2月23日他界しました。そして、彼女の遺言に基づき、その志を理解し、共感し、継承していこうとする人々が集まり、この記念財団が設立されました。

もとこは文化人類学者として世界各地の厳しい沙漠環境の中で、遊牧民、そして半定着民のひとつと、特に女性と家族の生活に密着してフィールドワークをおこなってきました。その過程で、特にアラブ社会に通底する、そして現代社会一般のわれわれも求めてやまない「平安」(SALAM)と「ゆとろぎ」(RAHA)といった生活概念をとらえ、その価値観を観察し綿密に記録分析し、また生きていくうえでの理想としても大切にしてきました。

この財団発足を機会に、これまでのもとこの研究を理解し、共感し、サポートして下さった内外の同僚、友人に厚く感謝し、今後、沙漠文化に関心ある方々、特に若い世代の研究者、芸術家がこの財団を最大活用されることを切に希望いたします。

## 財団の目的

この法人は、沙漠に生きる人びとに共感し、そのなかに住み込み、フィールドワークをした片倉もとこが、沙漠を「不毛の土地としての否定的なイメージ」や「ロマンチックに美化されたあこがれ」のイメージで見るのではなく、「緑化することだけがよいのではない。沙漠のままの文化を大切にしたい」とした視点を受け継ぎ、沙漠文化に関する研究調査を行う人、沙漠の芸術を創る人、日本人に限らない世界中の「沙漠に咲く花」のように得難い人を発掘・支援し、沙漠文化の発展に寄与する事を目的としています。

## 事業内容

- 1 沙漠文化に関する調査 および 学際的研究の支援
- 2 沙漠文化に関する芸術活動支援
- 3 沙漠文化に関する講演会、展示会、セミナー、シンポジウム、研究発表会、学校への出張授業等の開催
- 4 沙漠文化に関する国内外出版物の刊行支援
- 5 片倉もとこ研究資料の整理・公表寄贈に関する事業
- 6 その他前各号に関連する事業

## 片倉もとこ プロフィール (1937～2013)



奈良県生まれ。津田塾大学、東京大学大学院卒業。理学博士。文化人類学者。

津田塾大学、国立民族学博物館、中央大学で教授を歴任、国際日本文化研究センター所長を経て、同センターおよび国立民族学博物館、総合研究大学院大学の名誉教授を務めた。

サウジアラビアの沙漠で遊牧民と生活をともにしながら調査を重ね、さらに、エジプト、シリア、イラン、アラブ首長国連邦、イギリス、カナダ、アルゼンチンなど世界各地でフィールドワークを行う。

国土庁国土審議会文化と生活様式委員会委員長など多くの委員のほか、日本沙漠学会副会長、比較文明学会副会長、地中海学会副会長などを歴任。

### ■主な受賞歴

アジア経済研究所開発途上国研究奨励賞、各務記念財団最優秀著書賞、大同生命地域研究奨励賞、エッソ研究賞、石油文化賞  
ほか多数受賞

### ■主な著書

『Bedouin Village』（東京大学出版会）、『アラビア・ノート』（筑摩書房）、『イスラームの日常世界』（岩波書店）  
『イスラームの世界観—「移動文化」を考える』（岩波現代文庫）  
『ゆとろぎ—イスラームのゆたかな時間』（岩波書店）  
『やすむ元氣 もたない勇氣—「ゆとろぎ」の思想に学ぶ生きる知恵』（祥伝社）、『旅だちの記』（中央公論新社）  
ほか多数